



今日のキーワード コロナ禍でも『郊外型小売り』は好調

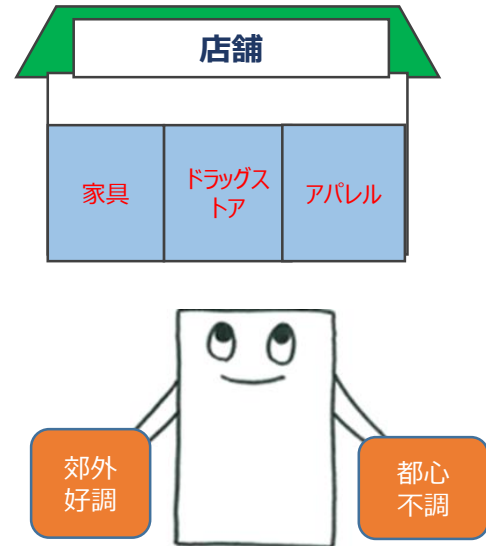
国内の消費は、新型コロナウイルスの感染が拡大し外出自粛などで大きく落ち込みました。また在宅勤務の定着などで消費スタイルが一変し、ビジネスモデルの抜本的な見直しまで迫られている企業もあります。こうした中で少数ながら業績が好調な企業があり注目されます。好調企業に共通するのは郊外の幹線道路沿いの店舗が多い『郊外型小売り』企業という点です。一方で都心部の店舗構成の高い企業は苦戦が続いています。

ポイント1 コロナ禍でも『郊外型小売り』は好調

- 新型コロナウイルスの感染拡大を契機に、訪日外国人の減少や営業・外出自粛などにより消費は大きな影響を受け、なお収束が見えない状況にあります。外食、百貨店、アパレルなどの年度決算や四半期決算において大幅な減益や赤字が相次ぐ中、少数ながら業績が好調な企業もあり注目されます。好調企業には郊外の幹線道路沿いの店舗が多いという共通点があり、巣ごもり消費によるまとめ買い需要などを取り込みました。

ポイント2 郊外店舗でまとめ買い需要を取り込み

- 郊外を中心に店舗展開するコトリHDは在宅時間の増加を受けて収納用品や、在宅勤務用の机や椅子の需要を取り込みました。3-5月期決算の純利益は前年同期比25.4%増の255億円となりました。
- コスモス薬品の20年5月期の連結決算は、純利益が同11.7%増の214億円となりました。同社は郊外の大規模店が多く食品販売にも注力しています。マスクやトイレトペーパーのほか、巣ごもり消費のまとめ買い需要を取り込みました。
- 子ども向け衣料・用品の西松屋チェーンの3-5月期の純利益は同44.5%増の24億円となり、2021年2月期決算予想も同約4倍の43億円に上方修正しました。従来予想は29億円でした。同社は郊外立地で店舗が広く、社会的距離がとりやすいことから消費者に受け入れられ、値下げ競争が沈静化したことで採算も改善しました。



今後の展開 ウィズコロナへの対応が今後の成長を左右

- 決算発表後の6月以降の月次売上をみても『郊外型小売り』好調、都心型小売りの苦戦という状況に変化はみられません。新型コロナウイルスの収束が見通せない上、在宅勤務の一部は定着するとみられています。都心でより多くの顧客を呼び込み利益を上げる仕組みは通用しにくくなります。各企業はビジネスモデルの変更を急ぐと思われそうですが、ウィズコロナ時代への対応力如何が、企業の今後の成長を大きく左右するとみられます。

※個別銘柄に言及していますが、当該銘柄を推奨するものではありません。

ここも
チェック! 2020年8月 3日 コロナショックで『自転車利用』が急増
2020年7月29日 コロナ禍で車の『サブスクリプション』は拡大の方向

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。